

氏名 (法人にあつては名称)	中国電力株式会社
住所	広島県広島市中区小町4-33
計画期間	令和4年4月1日～令和7年3月31日
基準年度(*1)	令和3年度

1 事業者の要件 ((1)、(2)については、特定年度(*2)における市内に設置された全ての事業所の合計量)

該当する事業者の要件	☒ (1)原油換算エネルギー使用量(*3)が1,500キロリットル以上 (特定事業者) ☐ (2)エネルギー起源二酸化炭素を除く物質ごとの温室効果ガス排出量(*4)が3,000トン以上 (特定事業者) ☐ (3)特定事業者以外の事業者
------------	---

2 事業の概要

事業者の業種	主として管理事務を行う本社等 (主たる事業の日本標準産業分類における細分類番号：3300)
事業概要	昭和26年設立、広島市内に本社を置き、中国地方5県を中心として電気事業を行っている。

3 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の実施状況等

(1) 温室効果ガス排出量の抑制に関する目標の達成状況

(※温室効果ガス排出量の下段は削減量の対基準年度比 $((a-b)/a) \times 100$ (aは基準年度の実排出量))

項 目	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	計画期間の実績 b			
	令和3年度	令和4～令和6年度 (平均値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和4～令和6年度 (平均値)
温室効果ガス 実排出量(*5)	16,660 t-CO ₂	16,329 t-CO ₂	16,647 t-CO ₂	16,245 t-CO ₂	15,540 t-CO ₂	16,144 t-CO ₂
		2.0 %	0.1 %	2.5 %	6.7 %	3.1 %
温室効果ガス みなし排出量(*6)		16,329 t-CO ₂	16,647 t-CO ₂	16,245 t-CO ₂	15,540 t-CO ₂	16,144 t-CO ₂
		2.0 %	0.1 %	2.5 %	6.7 %	3.1 %
実績に対する 自己評価	空調設備等の効率的な運用により、令和4～令和6年度平均値が基準年実績値を下回った。引き続き今まで以上に節電対策に取り組みたい。					

- *1 基準年度とは、温室効果ガスの抑制割合を比較する基準の年度であり、原則として特定年度(*2)とする。なお、基準年度の温室効果ガス実排出量(*5)については、事業活動の著しい変動等により特定年度が基準年度として適当でないときは、事業者の判断により、特定年度を含む連続した過去3か年度の平均値とすることができる。
- *2 特定年度とは、計画期間となるべき期間の最初の年度の前年度をいう。
- *3 原油換算エネルギー使用量とは、燃料の量並びに他人から供給された熱及び電気の量をそれぞれ発熱量に換算した後、原油の数量に換算した量の合算をいう。
- *4 温室効果ガス排出量とは、二酸化炭素（エネルギー起源のもの及び非エネルギー起源のもの）、メタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン、パーフルオロカーボン及び六フッ化硫黄）の排出量を二酸化炭素の数量に換算したものをいう。
- *5 温室効果ガス実排出量とは、上記(*4)のうちエネルギー起源二酸化炭素の排出量と、それ以外の物質ごとの温室効果ガス排出量が特定事業者単位で3,000トン以上のものの排出量の合算をいう。
- *6 温室効果ガスみなし排出量とは、上記(*5)に対して環境価値(*8)に相当する温室効果ガスの削減量等を調整したものをいう。なお、環境価値が活用されないときの温室効果ガスみなし排出量は、温室効果ガス実排出量と等しく

(2) 事業分類ごとの原単位(*7)の抑制に関する目標の達成状況 (※任意記載)

(※原単位の下段は削減量の対基準年度比 $((a-b)/a) \times 100$)

事業分類	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	計画期間の実績 b			
	令和3年度	令和4～令和6年度(平均値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和4～令和6年度(平均値)
		%	%	%	%	%
		%	%	%	%	%
		%	%	%	%	%
原単位の指標及び実績に対する自己評価						

(3) 温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置の実施状況

実施した温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置は以下の通りである。

- ・空調設備の実績を踏まえた効率の運転の検討および実施。
- ・照明の部分消灯、LED化、不要時消灯徹底。
- ・温水洗浄便座の暖め、温水機能の停止。
- ・「エコ・オフィス実践行動プラン」に基づいた取り組みの実施。

(4) 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する措置の実施状況 (環境価値(*8)の活用等)

特になし

4 その他の取組の実施状況

当社は、電気を中心とするエネルギー供給事業者として、「エネルギーの脱炭素化」と「お客様・地域の脱炭素化」を2本柱にカーボンニュートラルの推進に取り組んでおり、主な取り組みは以下のもの。

【再生可能エネルギー／調整力】

- ・既存水力発電のリバウリング
- ・浮体式洋上風力技術研究組合(FLOWRA)へ参画
- ・NEDO公募事業「既設発電設備の同期調相機化に関する調査」の採択
- ・下松発電所跡地における系統用蓄電システムの導入

【原子力】

- ・島根原子力発電所2号機の営業運転再開
- ・島根原子力発電所3号機の長期脱炭素電源オークションでの落札

【火力】

- ・柳井発電所新2号機の長期脱炭素電源オークションでの落札
- ・JOGMEC委託事業「先進的CCS事業に係る設計作業等」を2件受託
- ・大崎クールジェンにてバイオマス混合ガス化実証を達成

【脱炭素化に資するサービスの開発／事業展開】

- ・太陽光パネルのリユース・リサイクルに関する業務提携契約の締結
- ・ペロブスカイト太陽電池の開発・製造・販売会社へ出資
- ・オフサイト太陽光発電特約の締結
- ・省エネ・CO2削減に向けた「IoT型計測診断サービス」を開始

*7 原単位とは、温室効果ガス排出量を生産量、延べ床面積等の当該排出量と密接な関係を持つ値で除したものをい
 *8 環境価値とは、オフセット制度等により、温室効果ガスの排出削減等を行うプロジェクトを通じて生成される温室効果ガスの削減量等をいう。なお、温室効果ガスみなし排出量(*6)の調整対象となる環境価値は市内分とし、市長が認めるものに限る。

大規模事業所ごとの温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置及び目標の実施状況等

(※大規模事業所を設置していない事業者は提出不要)

事業所の名称	中国電力株式会社 小町ビル
事業所の所在地	広島市中区小町4-33
事業所の業種	主として管理事務を行う本社等
事業の概要	主として管理事務を行う本社事業所である。

1 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の実施状況等

(1) 温室効果ガス排出量の抑制に関する目標の達成状況

(※温室効果ガス排出量の下段は削減量の対基準年度比 $((a-b)/a) \times 100$ (aは基準年度の実排出量))

項 目	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	計画期間の実績 b			
	令和3年度	令和4~令和6年度 (平均値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和4~令和6年度 (平均値)
温室効果ガス 実排出量(*4)	4,209 t-CO ₂	4,125 t-CO ₂	4,222 t-CO ₂	4,206 t-CO ₂	4,227 t-CO ₂	4,218 t-CO ₂
		2.0 %	-0.3 %	0.1 %	-0.4 %	-0.2 %
温室効果ガス みなし排出量 (*5)		4,125 t-CO ₂	4,222 t-CO ₂	4,206 t-CO ₂	4,227 t-CO ₂	4,218 t-CO ₂
		2.0 %	-0.3 %	0.1 %	-0.4 %	-0.2 %
実績に対する 自己評価	空調設備の効率的な運用を実施し温室効果ガス排出量の削減に努めた。 引き続き今まで以上に節電対策を徹底したい。					

(2) 温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置の実施状況

2024年度中に実施した温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置 (空調調和設備) ・空調設備の運転実績に基づく効率的運転の検討および実施 (その他) ・昼休み・残業時等の不要な場所の照明消灯 ・近隣階への移動時の階段利用 ・退社時にはパソコン等のコンセントを抜く 等

(3) 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する措置の実施状況 (環境価値の活用等)

特になし

2 その他の取組の実施状況

2024度中に実施した環境配慮に関するその他の取組 ・事務用紙使用量の削減・リサイクル実施 ・グリーン製品の積極的な購入・使用 ・廃棄物の分別の徹底・再資源化の実施 ・社員に対する環境教育の実施

大規模事業所における温室効果ガスの排出の抑制等に係る重点対策評価票

事業所名	中国電力株式会社 小町ビル
------	---------------

(X) 基本対策(運用対策)の実施状況又は実施計画 <事務所・工場共通>

種別	No/ 記号	温室効果ガス削減対策の内容	計画 時	1年 度目	2年 度目	終了 時
一般管理	1	統括的な管理体制の整備及び責任者の配置	a	a	a	a
	2	電圧、電流、温度、圧力、風量、流量、エネルギー使用量、運転時間等の計測、記録	a	a	a	a
	3	取組状況の確認、評価、改善	a	a	a	a
空調設備 換気設備	4	事務室等の冷暖房の設定温度は政府の推奨値(冷房28℃、暖房20℃)	a	a	a	a
	5	不使用室の空調停止及びトイレ・倉庫等の不使用時における換気停止	a	a	a	a
	6	冷暖房時における外気導入量の最適化(必要最小量にダンパー調整)	a	a	a	a
	7	中間期における熱源停止及び(強制給気又は自然給気による)外気冷房	a	a	a	a
ボイラー設備等 照明設備	8	空調機器のフィルターの定期的な清掃・交換及び熱交換器の定期的な清掃	a	a	a	a
	9	空気比は省エネ法に準じて調整(最良の燃焼効率かつ完全燃焼)	e	e	e	e
実施状況又は 実施計画の 評価基準	10	不使用室や不使用区画の消灯及び執務時間外(休憩時間等)における消灯	a	a	a	a
	a	ほぼ全面的(又は大規模)に実施している				
	b	部分的(又は小規模)に実施している				
	c	計画期間中に実施計画あり				
	d	未実施				
	e	該当なし(・当該設備がない・設備の仕様上、実施できない)				

(Y) 目標対策(設備導入等対策)の導入状況又は導入計画 <事務所・工場共通>

種別	No/ 記号	温室効果ガス削減対策の内容	計画 時	1年 度目	2年 度目	終了 時
空調設備 換気設備	1	BEMSによる運転管理(エネルギー消費状況の分析、診断による省エネ運転管理)	a	a	a	a
	2	熱源水に太陽熱、地中熱、廃熱等を利用	d	d	d	d
	3	全熱交換器による排気の熱回収	a	a	a	a
ボイラー設備 給湯設備 燃焼設備等	4	ボイラー、燃焼設備、空調熱源設備等の燃料にバイオマス燃料を利用	d	d	d	d
	5	ボイラー等にエコマイサーを設置することによる廃熱回収	a	a	a	a
	6	太陽熱を利用した給湯	d	d	d	d
	7	ヒートポンプシステム、潜熱回収方式の熱源設備の採用	a	a	a	a
照明設備	8	LED照明の使用	b	b	b	b
発電設備	9	太陽光発電又は天然ガスコージェネレーションの使用	d	d	d	d
建物	10	複層ガラス(二重サッシを含む)による断熱性能の向上	d	d	d	d
導入状況又は 導入計画の 評価基準	a	ほぼ全面的(概ね半分以上)に導入している(発電については10kW以上)				
	b	部分的(概ね半分未満)に導入している(発電については10kW未満)				
	c	計画期間中に導入計画あり				
	d	未導入				

(Z) 温室効果ガスみなし排出量の削減状況又は削減計画

	記号	削減量の対基準年度比(計画時及び終了時は計画期間における各年度の値の平均)		計画 時	1年 度目	2年 度目	終了 時
		計画時・2年度目・終了時	1年度目				
削減状況又は 削減計画の 評価基準	a	4%以上	2%以上	b	d	c	d
	b	2%以上 4%未満	1%以上 2%未満				
	c	0%以上 2%未満	0%以上 1%未満				
	d	0%未満 (増加)	0%未満 (増加)				

集 計

(X) 基本対策 =
$$\frac{\{(a \text{ の個数} \times \alpha) + (b \text{ の個数} \times \beta) + (c \text{ の個数} \times \gamma)\} \times 100}{\{10 - (e \text{ の個数})\} \times 5}$$

(基本ポイント 100 点満点)

計画 時	1年 度目	2年 度目	終了 時
100	100	100	100

(Y) 目標対策 =
$$\frac{\{(a \text{ の個数} \times \alpha) + (b \text{ の個数} \times \beta) + (c \text{ の個数} \times \gamma)\} \times 80}{10 \times 5}$$

(加算ポイント 最大 80 点)

※ 1～3 年度目は $\alpha=5$ $\beta=3$ $\gamma=1$ とする (X, Y 共通)
※ 計画時は $\alpha=5$ $\beta=3$ $\gamma=3$ とする (X, Y 共通)
(計画時においては、計画化の評価を増ししています。)

計画 時	1年 度目	2年 度目	終了 時
37	37	37	37

(Z) 温室効果ガス
みなし排出量
の削減 = a … 20 b … 10 c … 0 d … 0

(加算ポイント 最大 20 点)

計画 時	1年 度目	2年 度目	終了 時
10	0	0	0

総合点 = (X) + (Y) + (Z) (最大 200 点)

計画 時	1年 度目	2年 度目	終了 時
147	137	137	137

総合評価

※ 温室効果ガスみなし排出量が基準年度比で増のときは、評価は AA 以下となります。

AAA	総合点が 150 点以上	< 優良事業者として公表 >
AA	総合点が 125 点以上	< 優良事業者として公表 >
A	総合点が 100 点以上	< 優良事業者として公表 >
B	総合点が 75 点以上	< 非公表 >
C	総合点が 75 点未満	< 非公表 >

計画 時	終了 時
AA	AA

大規模事業所ごとの温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置及び目標の実施状況等
(※大規模事業所を設置していない事業者は提出不要)

事業所の名称	中国電力株式会社 宇品ビル
事業所の所在地	広島市南区宇品西4丁目4番33号
事業所の業種	主として管理事務を行う本社等
事業の概要	主として管理事務を行う事業所である。

1 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の実施状況等

(1) 温室効果ガス排出量の抑制に関する目標の達成状況

(※温室効果ガス排出量の下段は削減量の対基準年度比 $((a-b)/a) \times 100$ (aは基準年度の実排出量))

項 目	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	計画期間の実績 b			
	令和3年度	令和4～令和6年度 (平均値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和4～令和6年度 (平均値)
温室効果ガス 実排出量(*4)	5,775 t-CO ₂	5,660 t-CO ₂	5,321 t-CO ₂	4,858 t-CO ₂	4,448 t-CO ₂	4,876 t-CO ₂
		2.0 %	7.9 %	15.9 %	23.0 %	15.6 %
温室効果ガス みなし排出量 (*5)		5,660 t-CO ₂	5,321 t-CO ₂	4,858 t-CO ₂	4,448 t-CO ₂	4,876 t-CO ₂
		2.0 %	7.9 %	15.9 %	23.0 %	15.6 %
実績に対する 自己評価	目標と比較して温室効果ガスの排出量平均値が減少した。 引き続き今まで以上に節電対策を徹底したい。					

(2) 温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置の実施状況

実施した温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置は以下のとおりである。

- ・ 照明の部分消灯実施、不要時消灯徹底、一部の照明にLEDを使用
- ・ 廊下等共用部分の空調温度調整
- ・ 温水洗浄便座の温め・温水機能の停止
- ・ 電気温水器の設定温度調整
- ・ 居室等およびトイレなどの給排気ファンの運転時間見直しによる運用改善の取り組み

(3) 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する措置の実施状況（環境価値の活用等）

特になし

2 その他の取組の実施状況

- ・ 事務用紙使用量の削減・リサイクル実施
- ・ 廃棄物の分別の徹底・再資源化の実施
- ・ 水道使用量の削減取組の実施

大規模事業所における温室効果ガスの排出の抑制等に係る重点対策評価票

事業所名	中国電力株式会社 宇品ビル
------	---------------

(X) 基本対策(運用対策)の実施状況又は実施計画 <事務所・工場共通>

種別	No/ 記号	温室効果ガス削減対策の内容	計画 時	1年 度目	2年 度目	終了 時
一般管理	1	統括的な管理体制の整備及び責任者の配置	a	a	a	a
	2	電圧、電流、温度、圧力、風量、流量、エネルギー使用量、運転時間等の計測、記録	a	a	a	a
	3	取組状況の確認、評価、改善	a	a	a	a
空調設備 換気設備	4	事務室等の冷暖房の設定温度は政府の推奨値(冷房28℃、暖房20℃)	b	b	b	b
	5	不使用室の空調停止及びトイレ・倉庫等の不使用時における換気停止	a	a	a	a
	6	冷暖房時における外気導入量の最適化(必要最小量にダンパー調整)	a	a	a	a
	7	中間期における熱源停止及び(強制給気又は自然給気による)外気冷房	a	a	a	a
ボイラー設備等	8	空調機器のフィルターの定期的な清掃・交換及び熱交換器の定期的な清掃	a	a	a	a
	9	空気比は省エネ法に準じて調整(最良の燃焼効率かつ完全燃焼)	e	e	e	e
照明設備	10	不使用室や不使用区画の消灯及び執務時間外(休憩時間等)における消灯	a	a	a	a
実施状況又は 実施計画の 評価基準	a	ほぼ全面的(又は大規模)に実施している				
	b	部分的(又は小規模)に実施している				
	c	計画期間中に実施計画あり				
	d	未実施				
	e	該当なし(・当該設備がない・設備の仕様上、実施できない)				

(Y) 目標対策(設備導入等対策)の導入状況又は導入計画 <事務所・工場共通>

種別	No/ 記号	温室効果ガス削減対策の内容	計画 時	1年 度目	2年 度目	終了 時
空調設備 換気設備	1	BEMSによる運転管理(エネルギー消費状況の分析、診断による省エネ運転管理)	d	d	d	d
	2	熱源水に太陽熱、地中熱、廃熱等を利用	d	d	d	d
	3	全熱交換器による排気の熱回収	b	b	b	b
ボイラー設備 給湯設備 燃焼設備等	4	ボイラー、燃焼設備、空調熱源設備等の燃料にバイオマス燃料を利用	d	d	d	d
	5	ボイラー等にエコマイザーを設置することによる廃熱回収	d	d	d	d
	6	太陽熱を利用した給湯	d	d	d	d
	7	ヒートポンプシステム、潜熱回収方式の熱源設備の採用	d	d	d	d
照明設備	8	LED照明の使用	b	b	b	b
発電設備	9	太陽光発電又は天然ガスコージェネレーションの使用	d	d	d	d
建物	10	複層ガラス(二重サッシを含む)による断熱性能の向上	d	d	d	d
導入状況又は 導入計画の 評価基準	a	ほぼ全面的(概ね半分以上)に導入している(発電については10kW以上)				
	b	部分的(概ね半分未満)に導入している(発電については10kW未満)				
	c	計画期間中に導入計画あり				
	d	未導入				

(Z) 温室効果ガスみなし排出量の削減状況又は削減計画

	記号	削減量の対基準年度比(計画時及び終了時は計画期間における各年度の値の平均)		計画 時	1年 度目	2年 度目	終了 時
		計画時・2年度目・終了時	1年度目				
削減状況又は 削減計画の 評価基準	a	4%以上	2%以上	b	a	a	a
	b	2%以上 4%未満	1%以上 2%未満				
	c	0%以上 2%未満	0%以上 1%未満				
	d	0%未満 (増加)	0%未満 (増加)				

集 計

$$(X) \text{ 基本対策} = \frac{\{(a \text{ の個数} \times \alpha) + (b \text{ の個数} \times \beta) + (c \text{ の個数} \times \gamma)\} \times 100}{\{10 - (e \text{ の個数})\} \times 5}$$

(基本ポイント 100点満点)

計画 時	1年 度目	2年 度目	終了 時
96	96	96	96

$$(Y) \text{ 目標対策} = \frac{\{(a \text{ の個数} \times \alpha) + (b \text{ の個数} \times \beta) + (c \text{ の個数} \times \gamma)\} \times 80}{10 \times 5}$$

(加算ポイント 最大80点)

※ 1～3年度目は $\alpha=5$ $\beta=3$ $\gamma=1$ とする (X, Y 共通)
※ 計画時は $\alpha=5$ $\beta=3$ $\gamma=3$ とする (X, Y 共通)
(計画時においては、計画化の評価を増ししています。)

計画 時	1年 度目	2年 度目	終了 時
10	10	10	10

$$(Z) \text{ 温室効果ガス
みなし排出量
の削減} = a \cdots 20 \quad b \cdots 10 \quad c \cdots 0 \quad d \cdots 0$$

(加算ポイント 最大20点)

計画 時	1年 度目	2年 度目	終了 時
10	20	20	20

$$\text{総合点} = (X) + (Y) + (Z) \quad (\text{最大 200点})$$

計画 時	1年 度目	2年 度目	終了 時
116	126	126	126

総合評価

※ 温室効果ガスみなし排出量が基準年度比で増のときは、評価はAA以下となります。

AAA	総合点が150点以上	<優良事業者として公表>
AA	総合点が125点以上	<優良事業者として公表>
A	総合点が100点以上	<優良事業者として公表>
B	総合点が75点以上	<非公表>
C	総合点が75点未満	<非公表>

計画 時	終了 時
A	AA

大規模事業所ごとの温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置及び目標の実施状況等

(※大規模事業所を設置していない事業者は提出不要)

事業所の名称	中国電力株式会社 中電病院
事業所の所在地	広島市中区大手町3丁目4-27
事業所の業種	一般病院
事業の概要	中国電力が運営する企業立病院。最先端のがん検査機能を持つPET-CTを有する。

1 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の実施状況等

(1) 温室効果ガス排出量の抑制に関する目標の達成状況

(※温室効果ガス排出量の下限は削減量の対基準年度比 $((a-b)/a) \times 100$ (aは基準年度の実排出量))

項 目	基準年度の実績 a	計画期間の目標 b	計画期間の実績 b			
	令和3年度	令和4～令和6年度 (平均値)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和4～令和6年度 (平均値)
温室効果ガス 実排出量(*4)	4,114 t-CO ₂	4,032 t-CO ₂	4,042 t-CO ₂	4,098 t-CO ₂	4,011 t-CO ₂	4,050 t-CO ₂
		2.0 %	1.8 %	0.4 %	2.5 %	1.6 %
温室効果ガス みなし排出量 (*5)		4,032 t-CO ₂	4,042 t-CO ₂	4,098 t-CO ₂	4,011 t-CO ₂	4,050 t-CO ₂
		2.0 %	1.8 %	0.4 %	2.5 %	1.6 %
実績に対する 自己評価	前年度に比べ電気使用量は増加したが、重油の使用量は削減できており、前年度よりも排出量を抑えることができた。引き続き節電対策に努めていきたい。					

(2) 温室効果ガス実排出量の抑制に関する措置の実施状況

省エネ活動の推進・徹底によりエネルギー負荷の低減を図った。

- ・ボイラの効率的運用(気温変化に応じた運転調整)
- ・不要な照明の消灯
- ・休日、夜間における電気機器の主電源OFF
- ・近隣階への移動時はエレベーターは使用せず、階段を利用
- ・設備更新時の高効率機器の積極的採用(一部LED照明を実施)

(3) 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する措置の実施状況(環境価値の活用等)

特になし。

2 その他の取組の実施状況

- ・事務用紙使用量の削減・リサイクルに努めた。
- ・グリーン製品の積極的な購入・使用に努めた。
- ・廃棄物の再資源化率の向上に努めた。
- ・社員への環境教育を実施した。
- ・環境保全活動(清掃活動等)を実施した。
- ・水道使用時における節水を意識したこまめな止水を実践した。

大規模事業所における温室効果ガスの排出の抑制等に係る重点対策評価票

事業所名	中国電力株式会社 中電病院
------	---------------

(X) 基本対策(運用対策)の実施状況又は実施計画 <事務所・工場共通>

種別	No/ 記号	温室効果ガス削減対策の内容	計画 時	1年 度目	2年 度目	終了 時
一般管理	1	統括的な管理体制の整備及び責任者の配置	a	a	a	a
	2	電圧、電流、温度、圧力、風量、流量、エネルギー使用量、運転時間等の計測、記録	a	a	a	a
	3	取組状況の確認、評価、改善	a	a	a	a
空調設備 換気設備	4	事務室等の冷暖房の設定温度は政府の推奨値(冷房28℃、暖房20℃)	b	b	b	b
	5	不使用室の空調停止及びトイレ・倉庫等の不使用時における換気停止	a	a	a	a
	6	冷暖房時における外気導入量の最適化(必要最小量にダンパー調整)	b	b	b	b
	7	中間期における熱源停止及び(強制給気又は自然給気による)外気冷房	d	d	d	d
	8	空調機器のフィルターの定期的な清掃・交換及び熱交換器の定期的な清掃	a	a	a	a
ボイラー設備等	9	空気比は省エネ法に準じて調整(最良の燃焼効率かつ完全燃焼)	a	a	a	a
照明設備	10	不使用室や不使用区画の消灯及び執務時間外(休憩時間等)における消灯	b	b	b	b
実施状況又は 実施計画の 評価基準	a	ほぼ全面的(又は大規模)に実施している				
	b	部分的(又は小規模)に実施している				
	c	計画期間中に実施計画あり				
	d	未実施				
	e	該当なし(・当該設備がない・設備の仕様上、実施できない)				

(Y) 目標対策(設備導入等対策)の導入状況又は導入計画 <事務所・工場共通>

種別	No/ 記号	温室効果ガス削減対策の内容	計画 時	1年 度目	2年 度目	終了 時
空調設備 換気設備	1	BEMSによる運転管理(エネルギー消費状況の分析、診断による省エネ運転管理)	b	b	b	b
	2	熱源水に太陽熱、地中熱、廃熱等を利用	d	d	d	d
	3	全熱交換器による排気の熱回収	d	d	d	d
ボイラー設備 給湯設備 燃焼設備等	4	ボイラー、燃焼設備、空調熱源設備等の燃料にバイオマス燃料を利用	d	d	d	d
	5	ボイラー等にエコマイサーを設置することによる廃熱回収	a	a	a	a
	6	太陽熱を利用した給湯	d	d	d	d
	7	ヒートポンプシステム、潜熱回収方式の熱源設備の採用	d	a	a	a
照明設備	8	LED照明の使用	b	b	b	b
発電設備	9	太陽光発電又は天然ガスコージェネレーションの使用	d	d	d	d
建物	10	複層ガラス(二重サッシを含む)による断熱性能の向上	b	b	b	b
導入状況又は 導入計画の 評価基準	a	ほぼ全面的(概ね半分以上)に導入している(発電については10kW以上)				
	b	部分的(概ね半分未満)に導入している(発電については10kW未満)				
	c	計画期間中に導入計画あり				
	d	未導入				

(Z) 温室効果ガスみなし排出量の削減状況又は削減計画

	記号	削減量の対基準年度比(計画時及び終了時は計画期間における各年度の値の平均)		計画 時	1年 度目	2年 度目	終了 時
		計画時・2年度目・終了時	1年度目				
削減状況又は 削減計画の 評価基準	a	4%以上	2%以上	b	d	c	b
	b	2%以上 4%未満	1%以上 2%未満				
	c	0%以上 2%未満	0%以上 1%未満				
	d	0%未満 (増加)	0%未満 (増加)				

集 計

(X) 基本対策 =
$$\frac{\{(a \text{ の個数} \times \alpha) + (b \text{ の個数} \times \beta) + (c \text{ の個数} \times \gamma)\} \times 100}{\{10 - (e \text{ の個数})\} \times 5}$$

(基本ポイント 100 点満点)

計画 時	1年 度目	2年 度目	終了 時
78	78	78	78

(Y) 目標対策 =
$$\frac{\{(a \text{ の個数} \times \alpha) + (b \text{ の個数} \times \beta) + (c \text{ の個数} \times \gamma)\} \times 80}{10 \times 5}$$

(加算ポイント 最大 80 点)

※ 1～3 年度目は $\alpha=5$ $\beta=3$ $\gamma=1$ とする (X, Y 共通)
※ 計画時は $\alpha=5$ $\beta=3$ $\gamma=3$ とする (X, Y 共通)
(計画時においては、計画化の評価を増ししています。)

計画 時	1年 度目	2年 度目	終了 時
22	30	30	30

(Z) 温室効果ガス
みなし排出量
の削減 = a … 20 b … 10 c … 0 d … 0

(加算ポイント 最大 20 点)

計画 時	1年 度目	2年 度目	終了 時
10	0	0	10

総合点 = (X) + (Y) + (Z) (最大 200 点)

計画 時	1年 度目	2年 度目	終了 時
110	108	108	118

総合評価

※ 温室効果ガスみなし排出量が基準年度比で増のときは、評価は AA 以下となります。

AAA	総合点が 150 点以上	<優良事業者として公表>
AA	総合点が 125 点以上	<優良事業者として公表>
A	総合点が 100 点以上	<優良事業者として公表>
B	総合点が 75 点以上	<非公表>
C	総合点が 75 点未満	<非公表>

計画 時	終了 時
A	A